

・翌年、昭和28年にえりも国有林の緑化事業のためえりも岬に「えりも治山事業所」が開設され、ここから現在まで71年続く緑化事業がスタート。

・しかし、当初緑化事業を担当できるような専門家が札幌営林局に不在。







クロマツ林造
成までの取組

○緑化の事業始まり

- ・ 昭和28年より「はげ山復旧事業」として始まる。
- ・ 砂漠化部分192haから緑化スタート

草本緑化



木本緑化

土壌 強風
水はけ

- ・ 整地作業 ・ 防風垣設置
- ・ 土壌改良 ・ よしず張り
- ・ 牧草播種 etc

・緑化事業を進めるうえで最初に行ったのは整地作業。

・レーキで小石や雨で掘れた地面を綺麗にならす。



- 土壌改良のため肥料等をまき、再度レーキで攪拌。

- 肥料分のない土壌で「草地化が成功する」ためには肥料が決め手。

- 予算に限りがあり、肥料以外にも使う資材はあったため施工面積はどうしても限りが出る。



- ・ 湿地化により水が滞水している箇所には排水溝を掘り水はけを良くする。
- ・ 水分を減らすことで冬期間に地面が凍上する危険度を減らす効果も。



- ・ 掘った排水溝のなかに藁を敷き入れて土をかぶせ水の通り道をつくる暗渠工も実施。藁を使用することでいずれ、藁が腐り養分としても期待された。



- ・緑化事業で最も苦慮したのは風対策。

- ・1年の大部分を風速10m以上の日が大半をしめるため、撒いた牧草の種も風対策をしなければすぐに跡形もなくなってしまう。

- ・そこで風から牧草を守るために設置したのが防風垣。

- ・初期は1.8mの木杭を1.5m間隔に打ち込み横木にたけすを張ったものを使用。



- 写真のように大人4人で木ダコと呼ばれる1つ25kgもある器具で1本1本人力で打ち込む。



- 残っているのは硬い岩のような地面ばかりで、そこに1日何本も打ち込む大変過酷な作業であった。